

一の宮巡拝

一の宮巡拝会 発行人 関口行弘

事務局：兵庫県川西市大和東2-13-10 創房関宮(有)内
電話：072-791-5158 FAX：072-791-5159
E-mail：junpai@sekinomiya.com

「奈良一の宮シンポジウム&社叢百景展」盛會に幕を閉じる。

去る9月16日(土)～17日(日)に奈良市生涯学習センターで初の「一の宮シンポジウム」が開催され盛會に終了致しました。16日～17日は一の宮に関する絵画、写真、絵馬、御朱印などの展覧會が1階ギャラリーで行われ、17日のシンポジウムでの第1部では、関西大学名誉教授奥村郁三先生の「神道と“祓”」、秩父神社宮司・京都大学名誉教授蘭田稔先生の「古代国家と一の宮祭祀」、アメリカシアトルから来ていただいたアメリカ椿大神社禰宜のコウイチ・パッシン先生の「アメリカ人から見た神道」、そして高野山蓮花院弥勒院傳燈大阿闍梨東山泰清先生の「神仏習合の意義」と題してそれぞれ講演をいただきました。また、第2部では以上の4人の先生方と一の宮巡拝会顧問・齋藤盛之先生、北海道東北ブロック世話人のダスティン・キッド先生の二人が加わった、一の宮パネルディスカッションでは長時間白熱したディスカッションが行われました。



奈良一の宮シンポジウムポスター

本会には一般の方々の参加が多く急遽モニタールームを設置するなどして対応いたしました。

本会の司会、コーディネーターを務めた関口代表世話人は、出来るだけ一般の方々に分り易く一の宮を知って

いただく事と巡拝がどのような意義があり興味があるのかを重点に各先生方に質問をして参加者の理解を深めました。

特にパッシン先生にはアメリカシアトルから遠路来ていただき、日本と全く同じように神道儀式を行っている様子をDVDで見せていただきました。また、蘭田先生は海外出張から帰国後直接会場に駆けつけていただきました。真にお忙しい中を感謝申し上げます。なお、このシンポジウムの内容は来年発行の年刊誌「一の宮巡拝」第2号(平成19年春発刊予定)で詳細に掲載されま

すので、是非ご一読いただきたいと存じます。

(事務局)

一の宮巡拝会

入会申し込み受付中!

数千年の昔から鎮座する一の宮神社。そこには癒しの森が広がり悠久の昔から今日まで連綿と受け継がれて来ました。日本人の叡智と日本人の心の再発見の場となる一の宮。全国一〇八社を巡拝しお互いの情報交換を行う本会には是非ご入会ください。(年会費二〇〇〇円)ご入会の方には年刊誌「一の宮巡拝」頒価二〇〇〇円を無料配布いたします。入会などお問い合わせは事務局へ。



年刊誌創刊号 (上製本128頁)

- 一の宮巡拝会事務局 創房関宮(有)内
〒六六六-0211 兵庫県川西市大和東
二一三二-10 電話〇七二-七九一-五二
五八 FAX〇七二-七九一-五二五九
- 入会金及び会費について
一般維持会員 年会費 三三〇〇円
賛助会員 一口二〇〇〇円(何口でも可)
寄付金 お志し
- 会費等お振込み先
郵便振替(大阪) 〇〇九九〇一五
八二五

平成十八年度世話人
代表世話人 関口行弘、副代表世話人 塩原輝昭、近畿ブロック 中瀬光雄、中国・四国ブロック 木下雅晴、関東ブロック 櫻井正憲、中部ブロック 大谷武司、北海道・東北ブロック ダスティン・キッド

小説「全国一の宮」調元祖

橘三喜 (第二十七回)

郡 順史・作 梶 鮎太・画

三喜は大阪へ出ると、京に向わずに道を河内、大和、伊賀そして伊勢へととった。むろん伊勢山田すなはち大神宮へ参拝するためである。

神道者として大神宮を拝さずして東海道を上り下り出来るわけがないからである。

五十鈴川で身を清め、壱岐一の宮天手長男命神社の完全祭祀と全国一の宮巡拝の志の無事成就を祈願し、あらためて道を東海道へとる所存で、松坂、津、四日市と伊勢湾沿いに下る。

四日市はすでに東海道の宿駅である。次の駅は三里八丁歩いて桑名、桑名は松平隠岐守十一万石の城下町であるが、ここからは宮(熱田)の駅に海上七里の渡舟があり、沿岸ぞいを歩かなくても済む。

時刻はすでに七つ(四時)をすぎている。六つ(六時)までに旅籠に入らないと泊まれない法規があるので、三喜はしばし四日市に泊まるか桑名にするか思案したが、道を急いでいるゆえ、足を少々速めればうまく最後の渡舟に間にあうかもしれない、と思い直して、桑名へ急ぐことにした。

これが三喜に思わぬ幸運をもたらせたのであった。

背後に落暉をあびながら額に汗して桑名に着く。此処から江戸へは九十九里、まだまだ遠いが半以上は来たことになり、それにちょうど宮からの渡舟が着こうとしているところであり、最後の下り舟に間にあったのだ。

やれやれと、三喜は額の汗をぬぐい、舟に乗ろうと振分けを肩へかつぎかえたとたん、「あっ、橘、橘三喜先生ではございませんか!？」

と声をかけられた。いま宮からの渡舟をおりたばかりの道中姿の若い武士である。武士は中間を一人供に従えていた。

誰? と、その若い武士の顔を一眼見て、それが誰か三喜には即座に判った。

もう十数年にもなろうか、三喜が平戸城下で、幼は五歳から長は十五、六歳の青少年を集めて平戸神楽を研鑽し且つ教えていた時分の習練生の一人、島上平之進であったからである。

当時島上は加助という幼名であったが、その後主君から温和誠実で仕事熱心な性格を買われ側近の士に抜擢され江戸詰めになっている、と聞いていたが、この様なところで逢うとは如何なる偶然か。そんな思いをこめて、

「これは島上殿、妙な所でお目にかかりました。それに見ればいずこかへの道中のご様子、どちらへお出になる所でございますか」

丁寧な口調で尋ねた。

昔はともあれ現在は藩士と神官、武家制度における身分に相違があるからだ。つまり神官、僧侶は一般

に身分序列から藩士(武士)より下級とされていたのである。三喜は平戸藩から扶持を貰って身分こそ保障されているが、一介の神官にすぎないのだ。

しかし島上は昔の師弟の序を忘れず、三喜に師禮をとって接しているのである。

「先生こそ旅支度で、いずこにお出掛あそばすところでございますか?」

島上は丁重な言葉の中に、懐しさと親しみをこめて反問してきた。

「江戸へ行く途路でございますが、貴殿こそ、江戸詰めと聞いておりましたが、どちらへ?」

と逆反問した。

「江戸へ。これは驚きいりました。拙者は、平戸へ帰藩し、先生へ、主君のお言葉をお伝え申し上げる途路でございます」

「なんと、私に、殿のお言葉を?」

一体如何なるお言葉であろうかと考えるより先に、三喜はこの偶然の出会いに神意を感じとり、驚きを一層強めたのであった。

その夜二人は、桑名の本陣に宿泊し、夜を徹して語り明かしたのであった。(つづく)





奈良一の宮
シンポジウム
&
社叢百景展



奥村 郁三先生



藺田 稔先生



コウイチ・パリス先生



東山 泰清先生

「自他共生」

21世紀は心の世紀、
人々は平和と癒しを求め、
「共生」の心がクローズアップされ、
世界中の人々が「自他共生／自分も他人も共に生きる」
という事を真剣に学ぶ。



齋藤 盛之先生



ダスティン・キッド先生



平成18年9月18日 読売新聞掲載



平成18年10月10日 読売新聞掲載



司会・コーディネーター
関口 行弘



平成18年10月1日 つばき新聞掲載



社叢百景展



椿大神社 権宮司 川島 敏孝様

一の宮巡拝の輪が広がっています。

「奈良一の宮シンポジウム&社叢百景展」に出席された方々から、「是非このようなシンポジウムを他の場所でも開催していただきたい」との声があり、一の宮巡拝会への入会も相次ぎ、ますます一の宮巡拝の輪が広がってきています。

以下に、今回のシンポジウムの内容を掲載した読売新聞(9月18日朝刊)の奈良版の記事を抜粋してお知らせいたします。

【神主や僧が考える神道】

奈良でシンポ祓いや神仏習合

大和国の大神神社など諸国にある「一の宮」神社を通じ、神道のあり方などを考える「奈良一の宮シンポジウム」が開催された。奥村郁三・関西大名譽教授が「神道と祓い」と題して講演。「人や自然が共存するための大切な儀式」と紹介し、徳川家の菩提寺として知られる高野山蓮花院住職の東山泰清・傳燈大阿闍梨が同山中にまつる丹生都比売神社を題材に、「神仏習合の意義」を講演され、「得度した時には氏神様にお参りをする」と述べられた。また、アメリカ椿大神社の神主コウイチ・パッシンさんも講演し「先祖からの命を子孫に伝え、太陽の恵みを大切に神道に興味を持った」と神主になった経緯を紹介された。

ちょっと一言

- 来年の5月に一の宮巡拝会全国総会を岡山市の木下雅晴中・四国ブロック世話人の地元で開催することになりました。
- 一の宮巡拝の方法として、諸国歴史ウォークの名で一の宮と史跡を含めた、歩く巡拝を提案してはどうか。
- 大手旅行会社が一の宮巡拝ツアーを行なっております。朝日旅行会とクラブツーリズムです。

年刊誌「一の宮巡拝」・「巡拝の声」原稿募集!

来年(平成19年)春発行予定の年刊誌「一の宮巡拝」に会員の皆様の「巡拝の声」の原稿を募集しています。会員の方が日頃巡拝をされていて、何か気付いたこと、困ったこと、また、研究されていること、などがありましたら右記の要領で事務局宛てに原稿をお送りください。「巡拝の声」のページに掲載いたします。

- ・字 数：400字詰め原稿用紙3枚以内、又はA4版の用紙1枚程度(40字詰め×30行)
- ・メ 切 日：平成18年12月31日(日)までにお送りください。
- ・送 付 先：666-0111 兵庫県川西市大和東2-13-10
創房関宮 有限会社 内 一の宮巡拝会事務局 雑誌編集係
(TEL: 072-791-5158 / FAX: 072-791-5159)

お問い合わせ / 上記事務局又は各ブロック世話人まで。

一の宮巡拝会

古代の聖地・その息吹と「氣」にふれる巡拝をして見ませんか
『100万人巡拝』をめざして…
賛同者歓迎・会員募集中 お問い合わせは下記事務局まで

一の宮巡拝会 事務局

創房関宮(有)内
〒666-0111
兵庫県川西市大和東2-13-10
電 話：072-791-5158
FAX：072-791-5159
E-mail: junpai@sekinomiya.com



コースのお申し込み・お問い合わせは下記へどうぞ

朝日旅行 大阪支社 電話：06-6231-1531
神 戸 電話：078-391-0951
京 都 電話：075-213-4565

受付時間：9:30～17:50

土曜日は電話受付のみ9:30～12:30まで。日・祝日は休ませて頂きます。

出 発 日：2006年11月15日(水)1泊2日
旅行代金：おひとり様 70,800円 1人一室
65,800円 2人一室

集 合：JR新大阪駅一階団体待合室
8:00集合(予定)
JR京都駅乗車8:35発(予定)

コース①：新大阪(8:19)⇒京都(8:35)⇒品川⇒(車中弁当昼食)
⇒館山・富津館山道⇒洲崎神社(安房国一の宮)⇒
安房神社(安房国一の宮)⇒富浦ロイヤルホテル泊
コース②：ホテル⇒一宮玉前神社(上総国一の宮)⇒香取神宮
(下総国一の宮)⇒鹿島神宮(常陸国一の宮)⇒東京
(車中弁当夕食)⇒京都⇒新大阪(21:49頃)

食 事：朝1・昼2・夕2食付

同行案内人 / 生谷 陽之助(一の宮巡拝会顧問・男山文庫主宰)